

津波被災地の防災緑地に関する住民の評価と意向

福島大学 正会員 ○川崎興太

1. 研究の目的

東日本大震災の発生から約 8 年が経過した現在、福島県、宮城県、岩手県の津波被災地では、復興まちづくり事業が完了しつつあり、その成果に関する評価が可能な段階に入りつつある。本研究は、東日本大震災の発生後における復興まちづくりに関する評価を行うための基礎資料をえることを目的として、福島県いわき市豊間地区の防災緑地に関する住民の評価と意向について分析するものである。

2. 豊間地区の防災緑地の概要と住民の評価

(1) 豊間地区の防災緑地の概要

豊間地区の防災緑地は、いわき市が施行者である震災復興土地地区画整理事業に、福島県が公共施設管理者負担金を拠出することで整備されるものである。延長は約 2.4km、幅は約 50m、面積は 13.6ha、地盤面の最高高さは 10.2m である。2013 年 11 月に工事が着手され、2019 年 3 月に完成になる予定である。

豊間地区では、2013 年 4 月から 6 月にかけて、防災緑地に関する住民ワークショップが 4 回にわたって開催され、その後、住民団体によって提言書が福島県に提出されている。こうした取り組みを契機として、地域の樹木の DNA を保存するための住民と行政の協働プロジェクトである「どんぐりプロジェクト」などが進められており、2018 年 11 月には、「第 38 回緑の都市賞都市緑化機構会長賞」を受賞するに至っている。

(2) 豊間地区の防災緑地の概要

豊間地区の防災緑地に関する住民の評価と意向を把握するため、2018 年 12 月から 2019 年 1 月にかけて、アンケート調査を実施した（表 1）。対象者は、震災前に豊間区に居住していた世帯および震災後に豊間区に転入してきた世帯のうち、地縁法人豊間区（震災前は任意団体豊間区）に加入している／していた世帯であり⁽¹⁾、調査票の配布数は 570 件である。回収数は 127 件であり、回収率は 22% である。

以下では、この調査の結果について分析する。分析にあたっては、土地地区画整理事業の施行区域内の居住

者（以下「施行区域内」）、同事業の施行区域外の豊間地区内に立地する災害公営住宅の居住者（以下「施行区域外・災害公営住宅」）、施行区域外で災害公営住宅の居住者を除く豊間地区内の居住者（以下「施行区域外・豊間地区内」）、豊間地区外の居住者（以下「豊間地区外」）に分けて行う。

表 1 アンケート調査の概要

目的	●防災緑地に関する住民の評価と意向を把握すること
方法	●郵送調査および面接調査
対象者	●震災前に豊間区に居住していた世帯および震災後に豊間区に転入してきた世帯のうち、地縁法人豊間区（震災前は任意団体豊間区）に加入している／していた世帯（震災前の居住世帯のうち連絡先が不明の世帯は除く）
期間	●2018年12月20日～2019年1月23日
内容	●回答者の属性 ●防災緑地に関する評価 ●防災緑地に関する希望や意向 ●防災緑地の維持管理へのかかわりの状況や意向
配布数	●570件
回収数	●127件
回収率	●22%

①回答者の属性

回答者の居住地は、「施行区域内」が 23%、「施行区域外・災害公営住宅」が 39%、「施行区域外・豊間地区内」が 14%、「豊間地区外」が 18%、無回答が 6%である（図 1）。性別は、「男」が 56%、「女」が 20%、無回答が 24%である（図 2）。年齢は、60 代以上が 73%である（図 3）。職業は、「無職」が 52%である（図 4）。

②防災緑地に関する住民の満足度

防災緑地に関する住民の満足度については、防災、

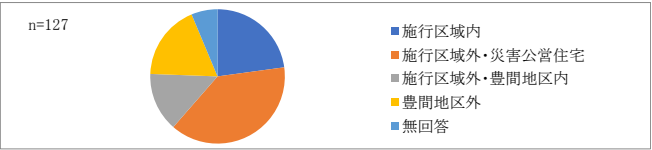


図 1 回答者の居住地

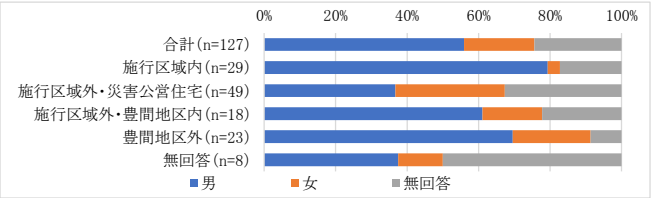


図 2 回答者の性別

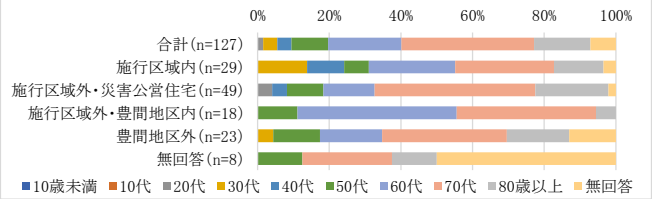


図 3 回答者の年齢

キーワード 防災緑地、津波被災地、東日本大震災

連絡先 〒960-1296 福島県福島市金谷川 1 番地 福島大学 共生システム理工学類 TEL. 024-548-8283

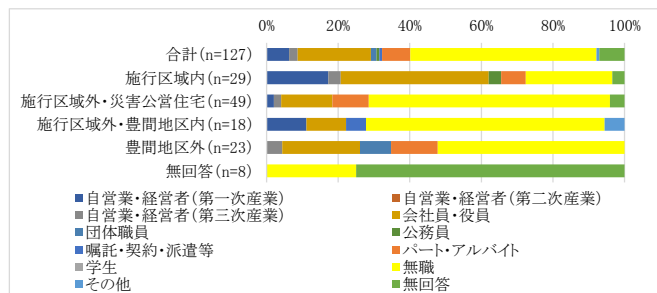


図4 回答者の職業

景観、環境、地域振興のいずれの点についても、「普通」が最も多いが、防災と地域振興については「満足」の方が「不満足」よりも割合が高く、景観と環境については「不満足」が「満足」よりも割合が高い（図5～図8）。

防災に関する「満足」の理由としては、防潮堤に加えて防災緑地により減災効果が大きくなったことなど、地域振興に関する「満足」の理由としては、公園が多いので交流ができることなどが挙げられている。景観に関する「不満足」の理由としては、海が見えなくなってしまったことなど、環境に関する「不満足」の理由としては、樹種が生態系にこだわりすぎであることなどが挙げられている。

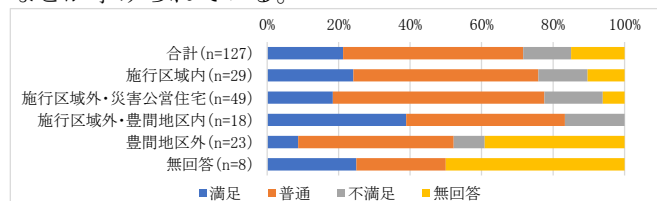


図5 防災の観点からの防災緑地の評価

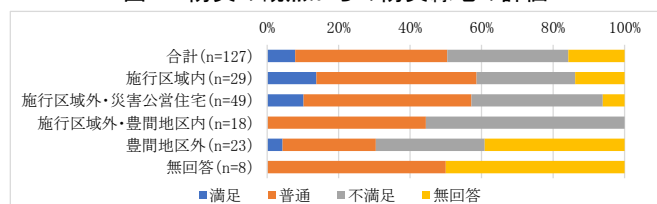


図6 景観の観点からの防災緑地の評価

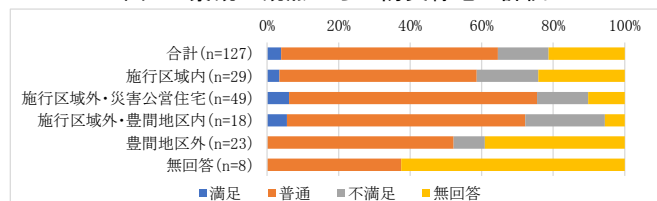


図7 環境の観点からの防災緑地の評価

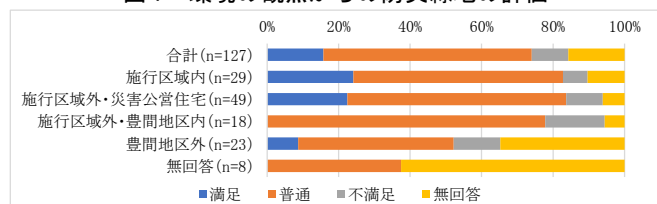


図8 地域振興の観点からの防災緑地の評価

③防災緑地に関する住民の希望や意向

防災緑地に関する希望や意向については、「希望や

意向がある」が22%、「希望や意向はない」が43%、無回答が35%である（図9）。

希望や意向の内容としては、人口が減少する中で地域住民が手入れや掃除を行うことは難しくなるので行政が維持管理してほしいといった維持管理に関する希望や意向、街灯、展望タワー、散歩道、案内板などを整備してほしいといった施設や設備の整備・活用に関する希望や意向などが挙げられている。

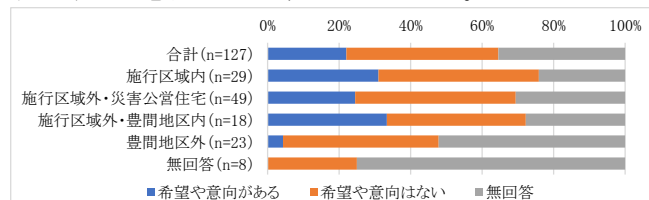


図9 防災緑地に関する希望や意向

④防災緑地の維持管理へのかかわりの状況や意向

防災緑地の維持管理へのかかわりの状況や意向については、「すでに維持管理にかかわっている」が16%、「今後は維持管理にかかわりたい」が9%、「今後も維持管理にかかわりたくない」が36%、無回答が39%である（図10）。

「すでに維持管理にかかわっている」の具体的な内容としては、すでに桜の植樹や草刈りなどを行っていること、「今後は維持管理にかかわりたい」の具体的な意向としては、国、県、市、ボランティア、住民が参加できるような維持管理の方法を考えてほしいなどの意見が挙げられている。

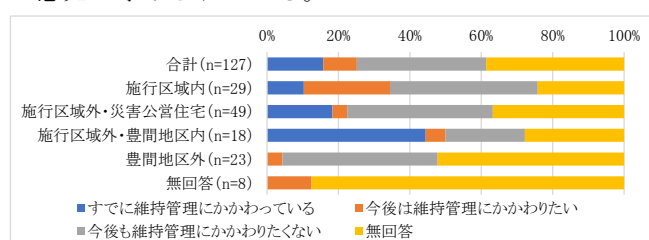


図10 防災緑地の維持管理へのかかわりの状況や意向

3. 結びにかえて

本研究では、完成が間近に迫ったいわき市豊間地区の防災緑地に関する住民の評価と意向について分析した。今後、植栽樹木の成長や住民の維持管理活動の進展などに伴って、住民の評価や意向も変化すると考えられる。住民の評価や意向を継続的に把握し、復興まちづくりを持続的に推進していくことが必要である。

【補注】

- (1) 震災前における豊間地区の居住世帯の任意団体豊間区への加入率はほぼ100%であり、現在の地縁団体法人豊間地区への加入率もほぼ100%である。